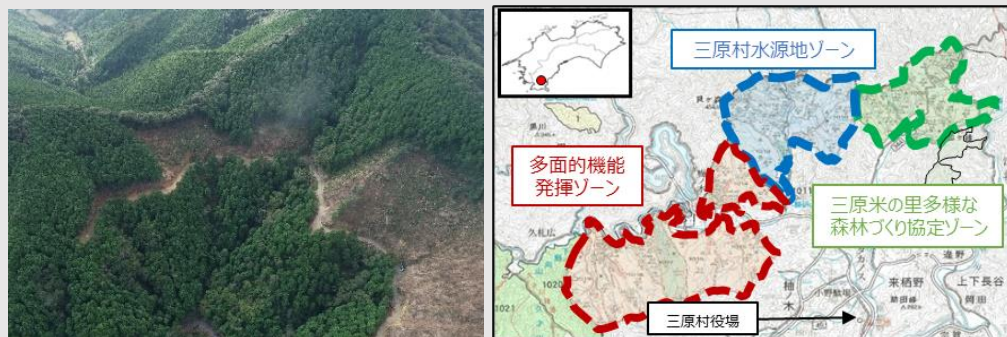


事例1 多面的機能の発揮に向けた複層林誘導の「見える化」 (四国森林管理局 四万十森林管理署)



- ・高知県幡多郡(はたぐん) 三原村(みはらむら)栗畑山(あわばたやま)国有林
- ・(左) 誘導伐実施後の遠景(令和3年10月) (右) プロジェクトの区域

森林・林業基本計画では、森林の有する多面的機能を将来にわたって発揮させていくために、複層林化等の多様な森林づくりを進めることとしています。各森林管理局では、多様な森林づくりを進めるに当たっての課題や改善策等を検討・実践するために、区域を設定した上で複層林誘導の手法等を「見える化」するプロジェクトに取り組んでいます。

四万十森林管理署では、同プロジェクトを高知県三原村で実施しており、流域全体での森林の多面的機能の発揮に向けて多様な森林づくりを実践しています。森林づくりに当たっては、地元関係者と連携して、①針広混交林※など多様な森林づくり等を行う「三原米の里多様な森林づくり協定ゾーン」、②農地等の保全のために水源涵養機能の発揮を重視した「三原村水源地ゾーン」、③主伐・再造林などを実施し公益的機能を発揮しつつ木材生産を行う「多面的機能発揮ゾーン」の3つのゾーンに分けて管理経営しています。

令和3年度には、「多面的機能発揮ゾーン」において複層林に誘導するための誘導伐(区域全体で約34ha)を実施し、高知県、関係市町村の林業担当者等を招いて検討会を開催しました。民有林関係者からは「民有林において複層林への誘導を進めていく上で参考となったので、今後も情報共有していただきたい」といった意見があるなど好評を得ました。